

審査員特別賞 審査員コメント

ヤノベケンジ賞



[180]

2024年 ヤノベケンジ賞
題名：サスペンションダルマ
作家：鈴木 廣大

● ヤノベケンジ氏のコメント

● 作品の完成度の高さに驚きました。

● 打たれても立ち上がるダルマを近未来的な世界観で

● 味付けするセンスの良さも素晴らしい。

● 他のシリーズも見てみたくなる今後期待できる才能です。

渡邊 晃一 賞



[119]

2024年 渡邊 晃一 賞
題名：白河の神龍
作家：森 茂雄

● 渡邊 晃一 氏のコメント

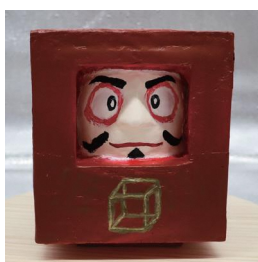
● 白河だるまの祈りのイメージと龍神との重なりから、

● 力強いパワーを感じました。

● 辰年ということもあり、今年の信仰とも重ねて推しました。

● 造形力も素晴らしいです。

ダルライザー賞



[222]

2024年 ダルライザー賞
題名：
作家：

● ダルライザー (和知 健明氏) よりコメント

● だるまを四角にすることで、

● まるでダルライザーとダイスが合わさったように感じました。

● 共闘でもなく和解でもなく、融合と言うべきか。

● 作家様は狙っていないと思いますが、

● 私が感じた印象で選びました。

風月の芸術祭委員長賞



[226]

2024年
風月の芸術祭実行委員長賞
題名：あすらだるま
作家：木村 裕子

● 風月の芸術祭実行委員長よりコメント

● 阿修羅と達磨の融合、表情も豊かです。



併せて、次のページから令和6年2月10日に開催しました、
現代アートゼミナールでの受賞作品についての3名の審査員のコメントをぜひお読みください。

第5回目

現代アートゼミナール

2024年2月10日(土) 13:30 -16:00
白河市立図書館りぶらん 中会議室にて



渡邊晃一 氏（以下[渡]表記）風月の芸術祭芸術監督・福島大学教授

海野仁兆 氏（以下[海]表記）風月の芸術祭実行委員長

和知健明 氏（以下[和]表記）風月の芸術祭実行委員・ダルライザー

[渡] 2部では今開催されている白河アートだるまの展覧会に関わるお話をしましょう。

[渡] 今回の審査に関わったのがヤノベケンジさんと私、和知さん（ダルライザー）と、先程ご紹介したい海野さん（龍興寺の住職）

海野さんは白河での芸術祭をはじめるきっかけとして、まず相談させていただいた経緯もあるんですが地元の歴史にも詳しく、同時に芸術祭の中心になってくださる方ということで実行委員長を現在いただいています。風月の芸術祭実行委員長賞は海野さんが選ばれたものです。

[渡] 330点の作品を映像と資料をもとに審査させていただきました。

沢山の作品の中から選ばれる作品はどうしても目立つものが多く、アートの持っている傾向から言うと2つの資質があります。

1つは、何かにこだわって創る・世界観を持っているということ。

もう1つは、公募とかコンクールの場合、上手く・精巧に造っている、工芸的な要素が優先されてしまうことも多いと思います。

今投影しているものは前回の受賞作品なのですが、もうひとつ審査にあたって私達が思ったのは、既視感・見たことあるものだ、どうしても選ばれにくいということがあります。斬新だったり目新しい要素のものが選ばれたかなと感じました。

そういう流れの中で今回は点数配分し、4名の審査員それぞれが数を入れた点を合算し、高い点数だったのが金・銀・銅という賞になりました。

[渡] 中でも面白かったのは、審査員特別賞に入ったものです。

他の審査員が選んでなかったりするものが多く、その拘りに、それぞれの意味を感じるような作品が多かったなって感じます。

審査員特別賞・渡邊 晃一 賞 [119] 題名：白河の神龍 作者：森 茂雄



[渡] 私が選んだこの作品に関して言うと、もうだるまの形じゃないんですね。

そこがちょっと難しいところで、どこまで「白河だるまらしさ」を残す残さないっていうところだと思うのですが、ただもし継続的にこの「白河だるまのアートだるま」というのも続けるとするならば、今年辰年だしな〜というイメージがまず一つあったのと、やっぱり造形的にすごく手の込んでいる形で、なかなか写真だと分かりにくいですけども立体的な造形力もすごく強い方だったということと、あと先ほどお話しした“風月の芸術祭”の中では「神獣」という、龍であったり狛犬だったりそういったテーマがあったので、そのテーマ性や折りみみたいな意味合いを兼ね、一つの新しいだるまの形としてもいいかなという思いで選ばせて頂きました。



審査員特別賞・風月の芸術祭実行委員長 賞[226] 題名：あすらだるま 作者：木村 裕子

[海] 審査当日は 330 体で、最終的に 341 体だったということで、まさか開けてみたらこんなに来るとは思っ
てなく。審査当日、市役所の会場にびっしり並んだだるまさんの間を通過してずっと見ていくんですけど、その作品
一つ一つの熱量、その想いとか、いろんなものがどんどん伝わってきてですね。

330 体にずっと見られている様な、視線を感じるというか。一回見て、意をけっしてもう一度見ると、また違う
風景が見えてくるっていう。だから最後には手にとって裏表色々見たりしたんですけども、与えられた紙を見て
この点数しか選べないの？って思っただけですね。非常に悩みました。

この選んだ「あすらだるま」は、多分阿修羅だと思うんですが、だるまってあの仏教の實在の人物なんですね。
その實在の人物の中に五百羅漢というのがあります。

芸術祭の中でお寺（龍興寺）を場所にして、そこに作品飾って見にきてもらう。そういうのを「どう思うんだ」
って言われたことがあるんですよ。

五百羅漢寺っていうのが東京目黒にあるんですけど、今も見せてるかどうかわからないんですが江戸時代はそこ
がその観光名所だったんですよ。そこに行ってその仏像を見てきて、帰りにどっかに寄って美味しいものを食べ
て帰るとか、そういう娯楽の殿堂(テーマパーク)みたいなものもあって。330体のだるまを見てるうちに、その五百羅漢の
その泣いたり笑ったり悲しんだり苦しんだりっていう顔、仏様って言うと静かな顔をしてるんですけども、五百
羅漢っていうのはこれから修行をしていく段階の人たちなので、非常に表情があるんですね。悩んだり、苦し
んだり、笑ったり、泣いたりしてるっていうのが。その頭があったので、他にもいっぱいある中で最後に目が合っ
ちゃったっていうそういう感じでした。

だからその芸術的にどうのって言うのではなく、目があったという。好みっていう言い方おかしいんですけども
次はまた違うかもしれない可能性があるんです。

ですから非常にこの341体を出品していただいて、今飾っている会場には制限があるので、あの展示の仕方になっ
てますが、本当は一体一体ぐるり回って見られるような、そういう展示をしたい。とさっきも話したんです。

この壁の周りずっと置いて、真ん中で飲みながら 2 時間ぐらいは見られるなっていう、そんな展示の仕方がしたいというのがあったんですね。

奈良に新薬師寺っていうのがあって十二神将のお寺なんです。塑像のね。そこは本当にここで暮らしたいなっていうくらいの雰囲気があって、だからこのだるまの中にこういられるっていうのが何かとっても良い雰囲気だったので、これから 500 体、1000 体、じゃないですけど、、、でも選考で悩みますね。

ですからそんな風にしていきたいという、それから、ただただ制作していただいた方々には感謝しかないです。本当に丁寧な作品たくさん送っていただいて、その感謝の一言であります。

[渡] あの写真が正面の写真なんですけど、その三面なのでそれぞれの面に顔があるんですよ。それがね繋がっていく丁寧な作りなので、ぜひご覧ください。

次はダルライザー賞で、これ四角って読んでいいのかな？作家名もタイトルも四角・・



審査員特別賞・ダルライザー 賞[222] 題名：□ 作者：□

[和] これしか情報が書いてなくて。記号だけだったんですけども。

僕はダルライザーを創ってダイスという悪役がいるんですが、ダイスはサイコロをモチーフにしていて四角い 6 面あるんですね、6 人組の賽の目のデザインになってるんです。この作品は賽の目があるわけじゃないんですが、だるまを四角くしようって発想が不思議とリンクするものがある。

実はダルライザーのストーリーは 2018 年に完結してるんですが、ダルライザーとダイスずっと戦ってきたけど最後に和解してるんですね。

そういう感覚があるというか、和解の象徴というか、ただ単に敵とヒーローを混ぜたとかじゃなく融合しているような感じがあって。すごい発想が面白いなと思ってこれを選ばせてもらいました。ダルライザー目線で選んだ感じです。

僕も実は「あすらだるま」は気になってた一つだったんですけども、やっぱり融合してる感じがすごい面白かった。

あと、僕個人的にはシンプルイズベストと思ってる。

最近の仮面ライダーめっちゃめっちゃ派手なんですよ、ゴテゴテしてるんです。あのコスチュームってどこかでショーをやろうとすると、ホームセンターとかで売ってる大きいツールケースみたいな 3 箱ぐらい持っていかないといけないんですよ。僕、全部一式これ 1 個（ビジネススーツケース）で行けちゃうんですよ。

これはどこのご当地ヒーローと共演する時にもよく言われるのは「ダルさん、これ 1 個ですか？」って。

あとここに悪役のマスクも 3 つぐらい入るんですよ。ビジネススーツ持ってきてくれれば、僕一人行けば現地でダルライザーショーができちゃう。これすごい大事で“シンプル イズ ベスト”だから名前も作家名も四角だけで表現したこのシンプルな潔さに惹かれました。

[渡] そういうシンプルさとか裏側にある背景で選ぶ人も気持ちがすごく入っちゃうので、いい意味でこういう審査員賞っていうのは、それぞれの作家の思い入れみたいところだと思う。そういう風に作家は考えていなかったかもしれないけれども、それを汲み取った人たちのアンテナがそういう風にストーリーを作って。みたいな感じになりましたね。

[渡] 次は、なんでこれが金・銀・銅賞で、良かったのかというお話をしていこうと思います。



銅賞[118] 題名：ダルマ型ロボット戦隊 DARUMAJIN-V8号&ダルマンズ 作者：森 茂雄

[渡] 実は私が選んだ人と同じ人なんですよね、あの龍の方（No.119の森 茂雄さん）。

なので私は同じ人には1票かなということと、昨年の受賞作品にロボットの作品があったので重なるなっていう思いがあり、重ねて票は入れてはなかったのですが、龍と同じようにすごい造形力のある方で、作り込み方がプロだな、塗装にしても付け加えられた粘土の造形にして見応えがありました。

[和] この方はダルライザーのお助けロボットって解説に書いてくれてるんですよ。思わず選びそうになるぐらい、ダルライザーのダルマンズっていうロボットが出てきて戦いを助けてくれるという感じで、造形もいいですし、先生も選んでいらしゃった龍の方と同じなんですすごい惹かれかかれたんですけども、ちょっとヤノベさんが選びそうかな。みたいなのがあって敢えて避けてしまったっていうのがあるんです。なのでこうして銅賞に残ってくれてよかったです。



銅賞[170] 題名：『百古不磨』-ひゃっこふま 作者：ManiaQ・mame

[渡] 森とか神獣のような自然のイメージが重なって作られていて、その傾向としてはすごく気にはなった作品でした。

[和] これ実は裏から見ると白い砂浜みたいになってるんですよ。それがすごい印象的で。このダルマが地球みたいに見える、森があって木が生えて地面があって、しかも裏側見ると砂浜みたいになってたりして。すごい不思議な作品なので、ぜひ探して見ていただきたいなと思います。

[海] この作品は頭のところがくり抜いてあり、中に箱庭みたいな形になってるんですね。同じような作りで、後ろは向いてないんですが蒸気機関車（No.274 安孫子 奏楽さんの作品）が近い雰囲気であったのもちょっと気になったんですが、こちらを選びました。



銅賞[181] 題名：LIFE IS HEAVY 作者：DM7WORKS

[渡] こちらの作品は、石のような感じだけど温かい感じを受け、シンプルだけでも惹かれる作品だったなと思います。

[和] これ気になった作品で、ミケランジェロとかローマの彫刻のような、ヨーロッパ的な雰囲気と和のものとの融合してるのがすごい面白くて、しかもさっき渡邊教授も石っぽって言ってましたけど、紙じゃないですか。実際は。そういうマテリアルも国も違う感じがすごいなと感じ、印象的な作品でした。

[海] 和知さんの言っているのは「テルマエロマエ」ですかね。あれがよぎったんですよ。勝手に想像なんですけど非常に楽しませていただきました。



銀賞[50] 題名：チャーガマ・ブッダルーマ 作者：三浦 公子

[渡] 「白河だるま」は燃やすためのものなんですよ、実は。どんど焼きがあるので、だるまを買ったら、次の年はもう1サイズ大きいものを買って、前のものは燃やし（白河では燃やさず残す家もあり）ってどんどん大きく買って行くような歴史の中で、古い物は残っておらず、

先ほどの話(No.181の時)で西洋では礼拝堂でも必ず修復の対象にしますよね。天才っていうのがいて、その天才が描いた人間の作った手の通りに残されなきゃいけないみたいな発想がすごくある。

日本ってむしろ人間が作ったのではないみたいな要素がすごく多く、具体的には石窟・石像にしても洞窟に削り込まれて作られている石像は、雨とか風と一緒に削られていくような形で作られてくるので、パッと見た時に人間が作ったのか自然が削り出したものか解らない。墨もそうですね、水の上に墨を垂らせばあっと滲み出てくる、そういった人間の手作業と自然との関係みたいなものが対極的に位置づけられているように思います。だからだるまも、「長く残されない」という前提のもとに作られてきているような要素があったところを、逆説的に「絶対に壊れないよ」みたいなこうガッツリしたような茶釜を用いた、そういう発想が面白いと感じたのと、造形的に優れている点（元々の白だるまがわからなくなっちゃうほどの鉄の素材感や表情の豊かさ）に、見入ってしまうところが魅力的だなとも思いました。

[海] 視線が追いかけてくるし、非常に気になりました。それからその鉄でできているのではないかと思わせる質感が、非常に気になった作品ですね。

[和] 僕も初めて見た時に、本当に茶釜が置いてあるのかって思うぐらい細かい造形で、他の方も仰るとおり素材感がわからなくなるような感じでした。本当に技術が高くなって思いました。



銀賞[262] 題名：茜舞う 作家：立花温／一色商店

[渡] ちょっと写真だと見にくいんですが、すごく丁寧に描かれてる作品です。今まで出てきたものと対極的な良さがあると思いました。金魚が描かれてるんですけどもね、すごくそれが上手いんですよ。デザイン的にだるまの形に合うように、とても丁寧に美しい金魚の緩やかな動きとして描かれていて、いろんなものを作り込んでいらっしゃる方たちがいる中で、やはりちょっとシンプルでありながら美しいなと選ばせていただきました。

[海] これ実物を是非見ていただきたいんですが、非常に細かい絵なんです。最初は通り過ぎたんですよ。だけど実際に手にとってよく眺めてみたら、何ともこう不思議な魅力のある作品でした。ぜひ直接見ていただきたいと思います。（※審査員には手袋をしてもらっています。）

[和] 絵画としての魅力が高い。だるまが完全にキャンパスになっているという印象でした。

やっぱりどうしても派手な形になってた方が目は行きやすいのですが、その中でも本当に技法が細かくて、ぜひ生で見ていただきたい作品だなと思います。

[渡] 写真に撮ってしまうと、新聞に出てもちょっと分かりにくいとかあると思うのですが、本物の持つ力強さとか魅力があるんですね。その「繊細さ」とか「優雅さ」みたいなものが強調されて、ずっと見ていたいような美しい絵だなっていう感じがしたので、実物を見るとよくわかると思うので是非ご覧いただければなと思います。



金賞[225] 題名：猫式だるま王 作家：キタノデンキ

[渡] この作品もすごく上手に作り込まれていて、この作品の一番の魅力は写真ではちょっと見にくいんですが、猫ちゃんが運転してるんですね。これ車になっていて、ある意味一番白河だるまから遠いところが一番票が高く選ばれたなっていう印象があります。

色も青色がとても鮮やかな綺麗な色ですが、だるまのイメージは赤い色のイメージがあり、だるまの中に猫が運転してるなんて誰も想像しないだろうという感じ。逆にその人のイメージの発想で振ってくださったっていうのかな。一度これがあれば、今度またアートだるま公募したらもっとすごいものが出てくるだろうという期待感もあります。

とにかく猫ちゃんの造形とか立体物に作る構成力もあり、同時にその色彩的な青でありながらも、とても丁寧に描き込まれている良さや魅力が、最終的には皆さんの票を得たのかなと思っています。

[海] 猫が運転するっていうその発想が面白いなと思いました。あとは、細部まですごく丁寧にできてたというのがあったんです。これ遊園地のお子さんが100円入れて乗るパンダとか、これそんな風にしたら面白いんじゃないかなって審査の日からずーっと思ってるんですよ。例えばどっかの市内の商業施設とかに置いて、この期間中だけでもいいんですけど、そんなことできないかなって夢みたいな話を、こう思い起こさせてくれるような作品だったんです。すごくほっこりした作品です。

[和] これは部屋に入った瞬間に目につくぐらいインパクトがありました。だるまのデザインもそうですけど、猫が運転しているという、この1個だけで物語が感じられるというか。こういう機械が、周りにもたくさんあって猫とか犬とかが住人っていう童話的なファンタジーな世界を、これ一つで表現していると感じました。この正面の写真だけでは伝わらないと思うので、ぜひ生で見ていただきたいなと思います。この世界観が素晴らしいなと思います。

[渡] はい、ありがとうございます。

芸術祭の時になかなか南湖公園や龍興寺に行くのが大変な人が多いと聞くので、これをキャラクターにして、この車で芸術祭回れるといいなとか・・・まあ難しいですね。

こういう形で沢山の中から選ばせていただいたわけなんですけども、本当にレベル高くて、それぞれいいところがいっぱいあって、結局審査員たちの点数が恐ろしいほど割れてたっていうのが今回の結果だよ。

みんな違うところに点数が入っていて、実は一人が選んでるところで言えば3分の1ぐらい賞入っちゃうんじゃないか、ぐらいの割れ方をしていました。私たちは結局、自分のストーリーを背景に持ちながら見ていくところも多いので、必ずしもこの賞だけで全て成立してるわけではなく、これだけの沢山の人がアートだるまを創って出してくださったエネルギーとして、今回見て頂くことが一番じゃないかなって思います。

それぞれが全く違うだるま作っていてすごいですよね。

[和] このアートだるま公募は僕らも審査させてもらいましたけど、市民投票を実施します。皆さんも選べますので、ぜひ皆さんが選ぶだるまも僕らが知りたいなと思っていますので、そういう目線で選んでいただければなと思います。

[事務局スタッフ]

渡邊先生からお話ししたように、次の芸術祭は今年の8月お盆明けから、秋の彼岸前ぐらいのスケジュール感で計画をしております。詳細が決まりましたら、皆さんに分かるように広報したいと思います。

風月の芸術祭実行委員会は、市役所の文化振興課が事務局を担っております。この際ちょっと芸術祭に関わってみようかなという気持ちになった方がいらっしゃいましたら、ぜひ市役所の文化振興課にご連絡いただけますと幸いです。いろいろな関わり方がありますので気軽にお問い合わせください。本日はありがとうございました。